

可児市今渡の菱川農場が栽培した春の七草を詰め合わせたJAめぐみのの商品「岐阜の七草」が、首都圏のイトーヨーカドー78店舗で初めて販売されている。同農場ではセリ、ナズナ、ゴギョウなど春の七草の全てを市内の農場で栽培し、七草がゆを食べる1月7日に合わせて出荷できるよう、年末年始も休みなく作業を続けてきた。同社のバイヤーからも「安定した品質で売れ行きは好調」と太鼓判をもらい、同農場の菱川幸夫社長(73)は「最初は育て方も分からず試行錯誤したが、自分たちで栽培の改良にも取り組んできた。多くの人に食べてもらいたい」と話す。

(小森孝美)



40年かけて品質の良い春の七草を栽培してきた菱川農場の菱川幸夫社長(右)と暢之専務(左)が可児市今渡

岐阜の七草、首都圏に出荷

可児市の菱川農場が栽培

同農場では40年ほど前から春の七草の栽培を始め、今ではワシントンズンに25万パックほどをJAめぐみのに出荷する。七草がゆを食べる7日に合わせてタイミングよく収穫するためには、7種類それぞれで種をまく時期を変えている。当初は一斉に種をまき、収穫前に花が咲いてしまつ失敗もあった。種も販売されておらず、自家採種で品質のよいものを選び、全国の栽培農家とも情報交換をして、独自のノウハウで「岐阜の七草」を育ててきた。

安定した品質、売れ行き好調

(岐阜市)が仲介して首都圏のイトーヨーカドーでの販売が決まった。先月31日から収穫作業は始まり、パック詰めするとカネ井青果の羽島市の低温物流センターに運ばれる。鮮度を保ちながらの遠距離輸送を可能にしたことも首都圏での販売を後押しした。

78店舗で計7500パックが5日から販売され、神奈川県産の春の七草も並ぶ中、岐阜県産を手にする買い物が多いという。菱川暢之専務(46)は「評価をいただいたが、来年はそれ以上に良いものを作らなければと気が引き締まる」と話した。



店頭には並ぶ、菱川農場が栽培した「岐阜の七草」(写真左)が埼玉県久喜市、イトーヨーカドーアリオ鷺宮店